

C-48 運針作業と性格類型に関する実験的研究 (I)

東京家政大被服学Ⅱ 〇脊藤トシ 柳沢由紀子

目的 本研究は、現在の裁縫教育の被服工作の和服に於て、その作業が性格の影響をうけることに着目し、とくに、その第一段階として、運針作業と性格との相関関係を明確にし、指導上の一指針とすることを目的とする。

方法 本学短大被服専攻の学生に、Y.G性格テストを行い、A、B、C、D、Eの5類型より、各10名づつを抽出し、入学当初(才1実験)と卒業期(才2実験)に運針を行い、各集計し、比較検討した。

結果 以上の集計から次の結果がみられた。

- ① 20分間に実施した作業には、質、量とも非常に個人差がみられる。
- ② 作業量の前半、中程、後半にも各異なつた傾向がみられる。
- ③ 被験者によつて、あるいは、性格類型によつて、才1実験と才2実験の間には著明な変化がみられる。
- ④ ①～③の傾向は性格類型によつて各異なる傾向がみられる、即ち、運針作業と性格との間には明確な相関関係があることを見出した、なお、具体的な結果については後日報告する。